

湖國總鎮護

健康長壽の宮



長濱八幡宮

〒五六一〇〇五三

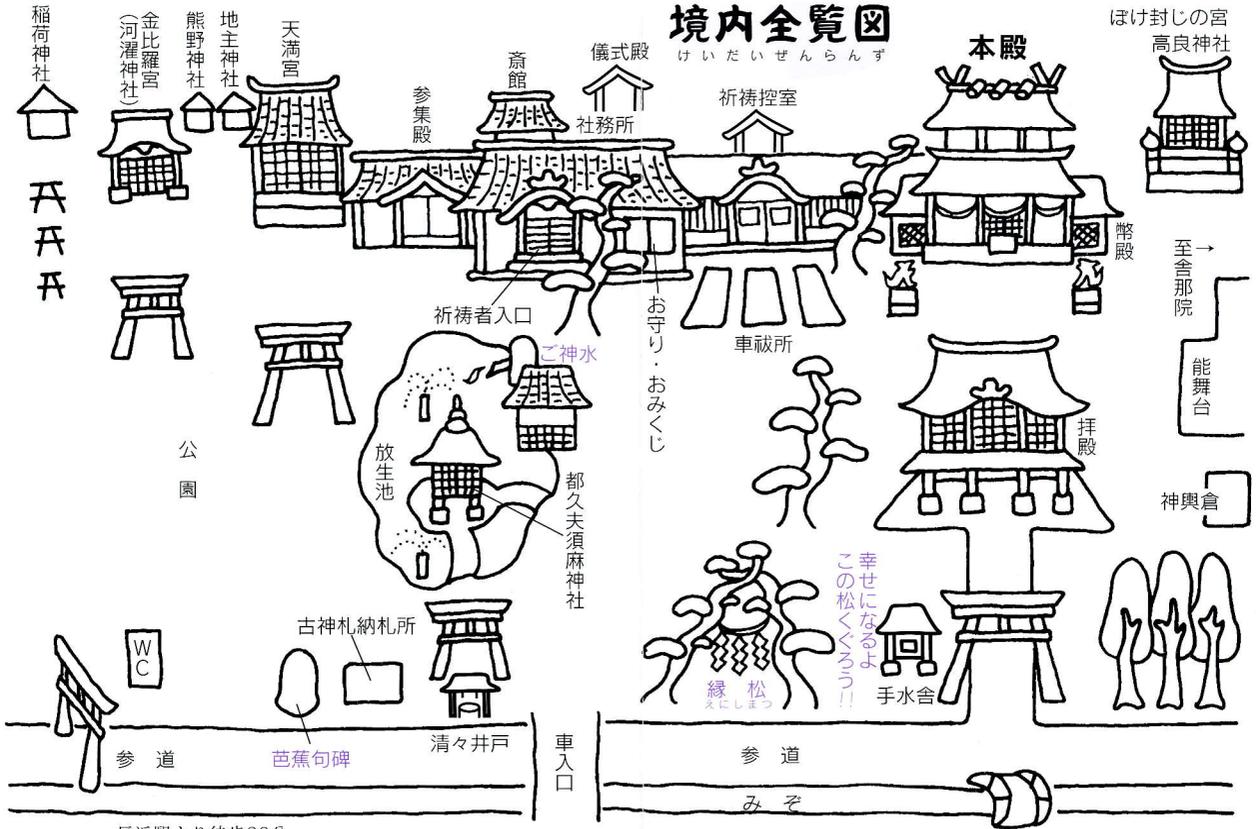
滋賀県長浜市宮前町13番55号

電話〇七四九(六二二)〇四八一

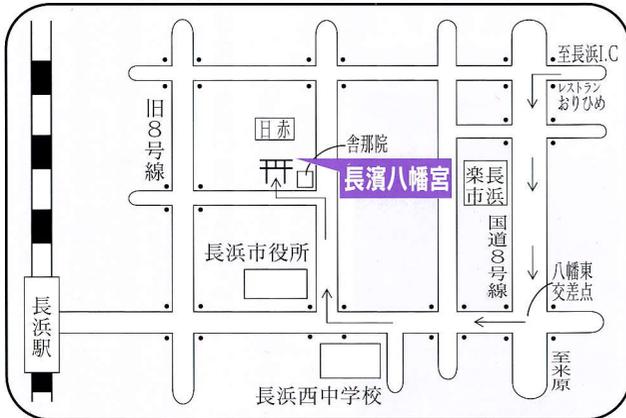
FAX〇七四九(六二二)〇八八一

境内全覧図

けいだいせんらんず



長浜駅より徒歩20分。
長浜1Cを降り、8号線を南へ3つ目の信号右折。



年中行事

- ― 一月 初詣
- 一月一日 歳旦祭
- 二月三日 節分祭
- 三月 祈年祭
- 四月(九日) 裸参り
- 四月(九日) 春季大祭
- (曳山まつり)
- 六月三十日 夏越大祓式
- 八月十四〜十六日 万灯祭
- 九月中 ぼけ封じ祈願
- 九の坂まいり
- 十月十三〜十五日 例祭
- ― 十一月 七五三詣
- 十二月十五日 火鑽(ひきり)神事
- 十二月三十一日 除夜祭
- 大祓式

祭神

(東御前) 足仲彦尊タラシナカウツヒコノミコト — (仲哀天皇)

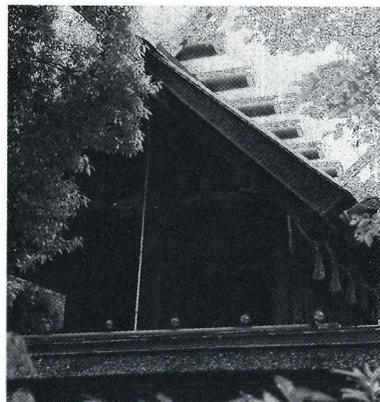
○厄除開運

(中御前) 誉田別尊ホンドワケノミコト — (応神天皇)

○厄除開運・健康長寿の神

(西御前) 息長足姫尊オキナガタラシヒメノミコト — (神功皇后)

○安産守護の神



(撰社)

天満宮テンマンミヤ

金刀比羅宮ことひらぐう

河瀧神社かわそぎじんじや

都久夫須麻神社つくとすまじんじや

菅原道真公スガワラノミチザネユウ：(学問守護の神・書道の神)

大物主命オオモノヌシノミコト (大国天)：(海上の守護神)

瀬織津姫命セオリツヒメノミコト：(身心浄化の神・婦人病平癒の神)

市杵島姫命イチキジマヒメノミコト (辨財天)：(水の女神・商売繁昌・才色兼備の神)

(末社)

高良神社こうらじんじや

末広稲荷神社すえひろいなりじんじや

地主神社ぢしゆじんじや

熊野神社くまのじんじや

武内宿禰タケウチノスネ：(健康長寿・子孫繁栄の神)

宇迦之御魂ウカノミタマノミコト 佐田彦神サダヒコノカミ 大宮能売神オオミヤノメノカミ：

(商売繁昌・五穀食物の神)

大地主命オオチノヌシノミコト：(土地の守護神)

家津御子命ケツミコノミコト 熊野速玉命クマノフスミノミコト 熊野夫須美命クマノフスミノミコト：

(奇魂速玉の神・殖産興業の神)

由緒

当宮は延久元年(一、〇六九)、源義家公が後三条天皇の勅願を受け、京都の石清水八幡宮より御分霊を迎えて鎮座された。それよりこの地は八幡の庄と称えられ庄内十一郷ウツネの産土ウツネの神として深く崇敬される事となる。当時のその社頭は三千石、一山七十三坊と伝えられ、本宮モトミヤの石清水八幡宮を凌ぐくらいであったという。しかし、その後、しばしば兵火にみまわれ、その社殿

は殆んど焼失された。時は流れ、天正二年（一、五七四）、羽柴秀吉公が長浜城主となるや、その大社の荒廃を惜しみ、社殿の修理造営をなし、再興に努めた。この史実は、長浜曳山祭の起源ともいえる。

社殿

ヒワダブ 檜皮葺き、木造、千木・カッオキ 樫木をその頂に備え八幡宮としては非常にめずらしい神明造の御本殿となつている。一説によれば伊勢の神宮の御饌殿を譲り受けたとも言ひ伝えられている。

曳山祭

ヒキヤマ マツリ
四百有余年の伝統を誇る日本三大山車祭の一つでもある長浜曳山祭は長浜城主である豊臣秀吉公に男子が誕生し、その喜びを城下の町民に頒つべく若干両の砂金をふるまい、これを受けた敬神の念の深き町民たちは、これを基金として、当宮の十二両の曳山を造り、町内を曳きまわつたのが起りである。そして、次第に各山組の間で其の善美を競うようになり、当時、生糸・縮緬等相場産業の盛んだつた長浜は、各地の名工を迎え、改造に改良を加え、今日の壮麗なる曳山の完成を見るに至つた。



縁の松

エニシ
黒松と赤松が互いを支え合うように成長した神木。この二つの松の間をくぐり祈願することにより、男女の縁はもとより、友人関係など良き方向へと発展し、又、家庭円満等のご利益をいただける。



ご神水

千古より、境内を巡りて、生命の源として放生池（市指定文化財）に流れ込む当宮の御神水は非常に靈驗あらたかであり、早朝より汲みにこられる方は後をたたず、お茶や御飯炊きに用いられ、健康に過ごされ、又、病気の方は、飲用されることにより、その患いを快方にむかわせるとも言われる。そのうえ生への活力をふるいたたせ、悩みや心配事など精神的な傷みをも祓い去る清らかで神秘的な御神水である。